

サステナビリティ・マネジメント

企業ステートメント	サステナビリティ・マネジメント・推進体制	クラレグループのマテリアリティ
クラレグループ行動規範	品質マネジメント	化学品・製品安全
コンプライアンス・ハンドブック	リスクマネジメント・コンプライアンス	サプライチェーン・マネジメント
トップステートメント	税務ポリシー	イニシアティブ等
サステナビリティ・マネジメント	活動目標と成果	
サステナビリティ・マネジメント・推進体制		
クラレグループのマテリアリティ		
品質マネジメント		
化学品・製品安全		
リスクマネジメント・コンプライアンス		
サプライチェーン・マネジメント		
税務ポリシー		
イニシアティブ等		
活動目標と成果		
安全報告		
環境報告		
社会性報告		
コーポレート・ガバナンス		
GRIスタンダード対照表 (内容索引)		
クラレレポート (統合報告書) / サステナビリティウェブサイト		
ランドセルは海を越えて		

クラレグループのマテリアリティ

2015年に策定した前マテリアリティでは18項目を選定しましたが、事業からの社会課題解決が不明確なものでした。そこでクラレグループではサステナビリティ・コンセプトの中核をなすマテリアリティの見直しを実施しました。

今回の見直し作業において、事業を通じクラレグループが解決に貢献すべき社会課題を明確にすることを主眼におき、またグローバル化する社会の要請に応えるべく、マテリアリティ策定作業に国内外のクラレグループの全事業部長が参画しました。

独創的な技術を生かしたクラレグループの事業は、今回マテリアリティとして特定した5分野「自然環境の向上」「生活環境の向上」「資源の有効利用と環境負荷の削減」「サプライチェーン・マネジメントの向上」「「誇りを持てる会社」づくり」など多くの重要課題の解決に資することができると思います。

次期中期計画に合わせ、新しいマテリアリティをもとにサステナビリティ中期計画を策定する予定です。

新マテリアリティ



マテリアリティと関連するSDGs

今回のマテリアリティ改定に伴い、「マテリアリティ特定手順」で示すように、SDGsからもクラレグループが取り組むべき重要課題を抽出しております。

また、それぞれのマテリアリティとSDGsとの関連性を明確にしました。我々のサステナビリティ活動は、マテリアリティをクラレグループが貢献すべき重要課題として取り組ますが、この関連付けによりSDGsの目標達成にも貢献できると考えます。

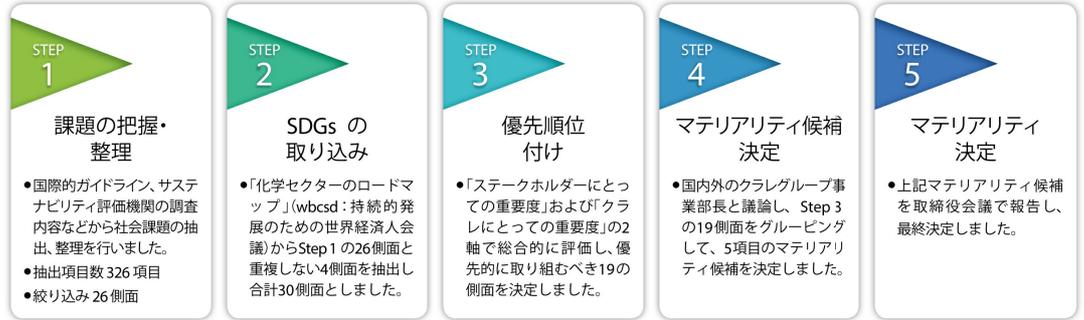
自然環境の向上	生活環境の向上
<p>6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。</p>	<p>3.8 全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。</p>
<p>13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>	<p>6.a 2030年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。</p>
<p>14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。</p>	<p>12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。</p>
<p>17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。</p>	<p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

基盤強化のための価値づくり

資源の有効利用と環境負荷の削減	サプライチェーン・マネジメントの向上
<p>3.9 2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。</p>	<p>8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。</p>
<p>9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>	
<p>12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p>	
<p>12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>	
<p>17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。</p>	
<p>6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。</p>	<p>「誇りを持てる会社」づくり</p> <p>5.1 あらゆる場所における全ての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p>
<p>13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>	
<p>14.2 2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。</p>	
<p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	

マテリアリティ特定手順

以下の手順に従いクラレグループが優先的に取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定しました。今後、国際社会の動向、事業環境の変化などに応じて定期的にマテリアリティの見直しを実施します。



Step 1

社会課題の抽出、整理に用いた国際的ガイドライン、サステナビリティ評価機関の調査内容は以下の通りです。

GRI、環境ガイドライン2012年版、RBA、MSCI、FTSE4Good、DJSI、ISO26000、国連グローバルコンパクト、Green Paper EU、European Commission Strategy on CSR、German Stability Code、Circular Economy Package、American Chemistry Council

Step 2

「化学セクターのロードマップ」(wbcSD: 持続的発展のための世界経済人会議)から抽出した4側面は以下の通りです。

食糧廃棄、水処理、気候変動、人々の健康

Step 3

「ステークホルダーにとっての重要度」および「クラレにとっての重要度」の2軸で総合的に評価したクラレグループのマテリアリティ・マトリックスを以下に示します。



クラレグループのマテリアリティ・マトリックス

「コーポレートガバナンス」「CSRマネジメント」「倫理/行動規範」「リスクマネジメント」「ステークホルダーとのかかわり」「トップステートメント」はマテリアリティとは別枠で取り扱う事としました。

その結果クラレグループが優先的に取り組むべきマテリアリティを以下の19側面として特定しました。

1	2	3	4	5
ダイバーシティ	GHG・有害物質の環境への排出	省エネルギー/再生可能エネルギーの利用	スマートワークと人材育成	労働安全衛生

6	7	8	9	10
マイクロプラスチック	プロダクト・ステewardship	人権の尊重	フード・ロス	水不足への対応
11	12	13	14	15
リデュース/リユース/リサイクル	気候変動	人々の健康	生物多様性	イノベーション
16	17	18	19	
CSR調達	サプライチェーン・マネジメント	廃棄物の削減	水資源の利用	

Step 4

Step3で特定しました19側面をグルーピングし、以下「自然環境の向上」「生活環境の向上」「資源の有効利用と環境負荷の削減」「サプライチェーン・マネジメントの向上」「「誇りを持てる会社」づくり」の5項目をマテリアリティ候補として決定しました。

また、大項目として「自然環境の向上」「生活環境の向上」を「事業を通じた価値づくり」、「資源の有効利用と環境負荷の削減」「サプライチェーン・マネジメントの向上」「「誇りを持てる会社」を「基盤強化のための価値づくり」としました。

	マテリアリティ	マトリックスで特定された19の側面
事業を通じた価値づくり	自然環境の向上	2、3、10、11、12、14、15
	生活環境の向上	9、10、11、13、15
基盤強化のための価値づくり	資源の有効利用と環境負荷の削減	2、3、10、11、18、19
	サプライチェーン・マネジメントの向上	7、16、17
	「誇りを持てる会社」づくり	1、4、5、8

Step 5

Step4で決定したマテリアリティ候補を取締役会で報告し承認を得ました。

企業情報

会社概要
ごあいさつ
企業ステートメント
役員
組織図
沿革
主な受賞歴
主要グループ拠点
会社案内動画
テレビ番組動画
広告ギャラリー

製品情報

事業から探す
製品名から探す
キーワードから探す
製品のはてな

研究開発

基本方針
技術と製品
組織・体制
歴史
トピックス

サステナビリティ

企業ステートメント
クラレグループ行動規範
クラレグループ人権方針
トップステートメント
サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画
クラレグループのマテリアリティ
Planet
Product
People

投資家情報

経営方針
IRニュース
クラレって?
業績・財務情報
IRライブラリー
株式情報
IRカレンダー
よくあるご質問

[ガバナンス](#)

[GRIスタンダード対照表（内容索引）](#)

[クラレレポート（統合報告書） / サステナビリティウェブサイト](#)

[ランドセルは海を越えて](#)

[イニシアティブ](#)